

# 地球ひろば

とも 共につくる ぼくらの未来

協力: JICA (ジャイカ)  
https://www.jica.go.jp/hiroba/

## ウガンダ②



- 国名 ウガンダ共和国
- 面積 24万1000平方キロメートル (ほぼ本州と同じ)
- 人口 約4148万8000人 (2016年世界銀行)
- 民族 バガンダ族、ランゴ族、アチョリ族など
- 言語 英語、ガンダ語など
- 宗教 キリスト教 (60%)、伝統宗教 (30%)、イスラム教 (10%)
- 時差 6時間 (日本が進んでいる)

# 稲作で農村部を豊かに

## 都市と地方 給料は4倍違う?!

近年、ウガンダでは都市部と農村部の経済格差が広がっています。ウガンダは順調に経済成長していますが、首都カンパラで働く人の給料は、地方で働く人のなんと2~4倍と、大きな差があります。ウガンダでは60~70%の人が農業で生活しているため、農家は「お金になる」作物を作ることに必死です。それでも、地方に住む人の生活は苦しく、都市部との格差は広がる一方です。



イネの豊作を喜ぶ農家グループ

## 格差を救うのは「お米」?!

そうした中、ウガンダの農家で急速に広がっているのが「お米」の生産です。米は栄養価が高い上に味も良く、保存もしやすい作物です。このため、ウガンダではたくさんの米が消費されています。私たち日本人にとってはなじみ深い米ですが、ウガンダでは高



研修で覚えたライン植えを農家が実践

級品として他の作物より高い価格で販売されているので、農家も生活に必要なお金を稼ぐことができます。

しかし、ウガンダは最近になって稲作を始めた国なので、米に関する知識があまりありませんでした。そこで「コメ振興プロジェクト」を通じて、私たちJICA専門家とウガンダ人研究者が協力して、ウガンダに合った稲作の方法を考えました。実際の農家への稲作研修は、ウガンダの人たちにして



ウガンダ人トレーナーからよりよい稲作方法を習う農家の人々

## JICAコメ振興プロジェクトの専門家 宮本輝尚さん

学生の頃、研究のために訪れたウガンダで米の需要が急速に伸びていることを知り、アフリカでの稲作に興味を持ちました。卒業後は青年海外協力隊や国際機関でのインターンを通して、アフリカの稲作に関して研究。2014年からは、JICAの「コメ振興プロジェクト」の専門家として仕事をしています。温厚な性格のウガンダ人と日本人は相性が良く、休日には職場の仲間と一緒にサッカーをするなど仕事以外でも楽しんでます。



脱穀機の使い方を指導する宮本さん

もらい、私たち日本人は横で見守っていることが多いです。ウガンダの人たちが自身の手で稲作を広めることで、初めて技術が定着するとともに、彼らの自信にもつながるためです。



## 笑顔が励み

「日本の支援で、米の量と収入が2倍も増えた」「子どもを学校に行かせることができ、本当にうれしい」

今まで、ウガンダの方からたくさんの感謝の言葉をいただきましたが、これが私の励みになっています。日本人が得意とする稲作で、アフリカの農村に多くの笑顔を届ける。これが私の仕事です。

## はじめよう SDGs

調べてみよう 考えてみよう

10 人や国の不平等をなくそう

Q1 日本ではどんな不平等が問題になっているかな。白々のニュースを振り返ってみよう。

Q2 クラスで困っている人がいなくなるために、何が出来るか考えてみよう。

残念ながらまだ不平等が存在します。例えば、日本

私たちの住む社会には、

## 10 人や国の不平等をなくそう



## 当たり前を見直す

められるといいですね。

ゴール10は、不平等な法律の改正をはじめ、弱い立場の人を守る社会の仕組みづくりを掲げています。クラスでは、みんなイヤな思いをせず過ごしているかな。そんなふうに考えてみるころから、私たちも始められるといいですね。

と今紹介したウガンダでは、得られるお金や生活環境に大きな差があります。また、年齢、性別、人種、生まれた場所、宗教、障害などを理由に、弱い立場に立たされてしまう人もいます。こうした不平等をなくし、すべての人が自分たちの能力を生かすことができる社会を目指すのがSDGsです。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

持続可能な開発目標 SDGs

(Sustainable Development Goals)

2015年に国連の場で加盟国が決めた30年までの世界の目標です。

